

「女性経営者のネットワーク、学歴、企業業績」¹

神奈川大学経済学部 比佐章一

帝京大学経済学部 比佐優子

学習院大学国際社会学部 乾友彦

要旨

アベノミクスの第三の矢として、労働力人口が減少する中、女性が労働市場で活躍する機会を拡げることを成長戦略の柱の一つと挙げられている。こうしたなか、労働力としての女性に対する研究に対する関心が高まっている。しかし多くの研究は労働者としての性別の違いに着目したものであり、女性経営者を分析対象とした研究はごく少なく、アンケート調査をもとにした研究では対象となる企業数が限られている。本論では、約 2 万社を対象に女性経営者の存在に着目する。さらに女性の教育の効果という点から学歴についても着目する。一方で、男性経営者が圧倒的な環境の中、女性経営者が銀行融資や商取引などの面で、不利な環境にあることが懸念されている。本論では、近年関心が高まっているネットワーク分析を用いて、取引ネットワークの違いについても考慮し、分析をおこなった。

本論文では、3 万社近い企業を対象とした「企業活動基本調査」に対応した、帝国データバンクのデータをもとに、女性経営者のいる企業の特徴について分析を行った。「企業活動基本調査」は、従業員 50 人以上かつ資本金 3000 万円以上という、ある程度の規模を有する企業を対象としている。そしてこれらの企業において、女性が経営者である企業は、27707 社中 559 社であり、全体の約 2%とわけて低水準にあることがわかった。

また女性が経営者である企業は、男性が経営者である企業よりも企業規模が小さく、成長率も低い企業である傾向にあることがわかった。さらに企業間の取引ネットワークの規模も小さいことが明らかになった。また専門学校以上の学歴を持つ、女性経営者の割合も、男性に比べて低い傾向にあることがわかった。また女性経営者の学歴をみると、4 年生大学が全体の 4 割、短期大学が 2 割、海外の大学が 7.8%となる。また女子大の割合が 42%であった。

また学歴と会社経営との関係についてみると、男性経営者の場合、経営者の学歴が高い企業ほど、会社の規模が大きく、また企業間の取引ネットワークの規模も大きくなる傾向にある。それに対し女性経営者の場合、学歴が高いほど、企業規模が小さく傾向があることがわかった。その一方で、企業間の取引ネットワークの規模は大きくなる傾向があることがいえた。

こうした事実から、女性は一般的に、ある程度の企業規模を持つ経営者としては、まだ社会的に認知されていない傾向になるということを示しているのかもしれない。こうした事実は、女性の社会進出を考えるうえで、考慮すべき点であるかもしれない。

¹日本学術振興会学術研究助成基金助成金基盤研究 C(課題番号：26380305、研究代表者：比佐章一)の研究助成を頂いた。記して深く感謝の意を表したい。